

「確かな学力を身に付けた児童の育成」  
～言語活動の充実を図る実践を通して～

I 研究の内容

1 研究の内容と方法

(1) 理論研究

- ・学力テスト等を分析し、児童の課題を把握する。

(2) 言語活動を充実させた授業づくり

- ・教科や単元の特性に合った言語活動を取り入れた授業を工夫する。
- ・全学年での授業公開。(一人一実践)
- ・授業案の検討及び授業後の研究会を全職員で行い、成果を確かめる。

(3) 日常的な言語活動・言語環境の充実

- ・授業や日常の活動において、話し方・聞き方・言葉遣い・挨拶などの指導を随時行う。
- ・読書活動、スピーチなど、各学年の実態に合わせ、言語活動の充実を図る活動を行う。
- ・教師による読み聞かせ、図書集会、全校一斉読書などの読書活動を推進する。

(4) 少人数を生かした、個に応じた指導の工夫と評価

- ・少人数の良さを生かした授業を工夫する。
- ・児童一人ひとりの課題に対応した指導を工夫する。

2 実践内容

(1) 授業づくり

授業実践(一人一実践)

第3学年	算数	「たし算とひき算の筆算」	授業者	石原喜久夫教諭
第4学年	算数	「変わり方しらべ」	授業者	望月真佐恵教諭
第6学年	国語	「未来がよりよくあるために」	授業者	小泉 匡之教諭

(2) 「聞くこと・話すこと」の各学年の目標達成に向けた取り組みを工夫する。

目標を教室に掲示したり、話のテーマを設定したり、話し方の順序を示したりして、分かりやすく伝え合えるように取り組んだ。友達の意見を聞いて自分の意見と比べて発表しようとする意識が高まり、話し合いを通して学習の理解を深めることができた。

(3) 日常的な言語活動・言語環境の充実

- ・朝、帰りの会でのスピーチ活動や、行事や集会での感想発表。
- ・朝のあいさつ運動(毎朝、全員が職員室にあいさつする)、言葉遣いの指導。
- ・全校一斉読書、「読書deピンゴ」などの読書活動の充実。

- (4) 少人数を生かした、個に応じた指導の工夫と評価
  - ・発言・発表の機会を多くとる。
  - ・考えを説明したり，教え合ったりする時間を十分にとる。
  - ・複式の授業や，他学年との交流活動。
- (5) 来年度の統合をふまえた指導の充実
  - ・予想される課題に向けての取り組み。

## II 成果と課題

### 1 成果

- (1) 確かな学力を身に付けることは本校の学校課題の最優先項目なのでふさわしい主題であった。さらに，言語活動を媒介として基礎基本を基に活用力を育成することは主体的に学ぶためにも重要である。言語活動を充実させ，児童が生き生きと学習する姿を確認することができた。
- (2) 小規模校である本校において，言語によるコミュニケーションの力をつけることは大きな課題である。そこに焦点を当てた研究主題は適切であった。個々の考え方や感じたことをじっくりと話す場を設け，問題を解く場面では間違っただから学べるように工夫し，答えを導き出すまでの過程を大事にしてきた。意識して発言の場を増やし，相手に伝わる話し方や聞き方を考え，お互いに意見を伝え合う意識が育ってきた。
- (3) 小規模校なので，教師一人ひとりの負担はとても大きかったが，各学年がそれぞれテーマに則った授業実践を行い，教師としての力量を高め合うことができた。授業の様子，児童の実態等を共有できよかった。教科も算数と国語と分かれてよかった。全校児童の授業の様子を全職員で知る良い機会となり，共有できたのが良かった。普段の生活では見られない児童の考え方を知ることができ，また，他の先生方の指導法から学ぶこともあり有意義なものであった。

### 2 課題

- (1) 確かな学力を身に付けるため，ICT機器を活用したアクティブラーニングを取り込んだ授業をどのように行うかしっかり研究していきたい。
- (2) 言語活動という大きなくりの中で，特につけたい力や手法について絞れたら良かった
- (3) 人数が少なく，一つの意見が出ると周りの児童もそれに従ってしまうため，発言数は多いのだが，意見の種類を増やすことがなかなかできなかった。

## III 成果物

### 1 研究授業学習指導案及び資料

- (1) 第3学年 算数科学習指導案 「たし算とひき算の筆算」
- (2) 第4学年 算数科学習指導案 「変わり方しらべ」
- (3) 第6学年 国語科学習指導案 「未来がよりよくあるために」

(研究主任 石原喜久夫)